

Brown Bag Seminar

No.061

オンライン
録画期間限定公開
(Zoom)
登録はこちら



2022 **8.10** (水) **12:10** ~ **12:50**

- 12:10-12:15 ◆ 演者紹介
- 12:15-12:40 ◆ プレゼン
- 12:40-12:50 ◆ 質疑応答

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_aCPC4qq0TbWYe8FkdDu-nw

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

地球環境変動下における安定的な食料生産へ向けて

司会 : Scott Valentine 教授 (Q-AOS 研究推進ディレクター)

石橋 勇志 准教授

農学研究院 資源生物科学部門 農業生物資源学



2050 年へ向けて世界人口が増加する中、全人口の食料を確保するためには、現在の 1.7 倍もの食料増産が必要であり、その農作物の増収は地球環境変動下で成し遂げなければなりません。また、温室効果ガスの抑制は食料生産にとっても重要課題です。現在、生産現場（栽培技術）を含め様々なアプローチから農業分野における脱炭素化が進んでおり、環境保全型農業へシフトする中で新しい農業生産技術が求められています。本講演では、農作物の地球環境変動への適応戦略を利用した新しい食料生産技術の構築や、異分野融合による新たな農作物生産技術開発の可能性について、現在の研究成果等を交えてご紹介致します。

福岡県久留米市出身。2008年 九州大学大学院生物資源環境科学府博士課程修了(農学)。穀類を研究対象として農作物のゲノム情報からフィールド調査まで一貫した研究を展開しています。2006年 日本学術振興会特別研究員(DC2)、2008年 日本学術振興会特別研究員(PD)、2011年 九州大学大学院農学研究院 特任助教を経て、2014年より現職。地球環境変動下における安定的な食料生産技術の構築へ向けて、特定の研究手法に捉われず異分野の研究者の方々と協力しながら食料問題へ挑んでいます。

Key Words

- 地球環境変動
- 農作物
- 食料
- 環境適応